式辞

明治 36（1903）年に、米国のプロテスタント・キリスト教の一教派であるディサイプルス派の宣教師によって日本･本郷の地に聖学院神学校が設立された年から数え、聖学院は今年、創立 120 周年を迎えました。

この記念すべき時を共に祝うために、本日ご列席いただきました、ご来賓の皆さまに､学校法人聖学院につらなるすべての教職員を代表して心より感謝申し上げます。そして、何よりも私どもの法人に連なる各学校を創設に導き、今日まで守り育ててくださいました、神にここに心からなる感謝をささげたいと思います。

明治 16（1883）年、秋田での社会改良事業を伴う形でのキリスト教伝道からスタートしたディサイプルス派の宣教活動の中で､日本におけるキリスト教の伝道には教育事業が伴わなければならないと考えた結果､所謂ミッションスクールを首都である東京の地に設立したことが聖学院の始まりです。明治 36（1903）年の聖学院神学校設立から 120 年を経た今、聖学院は、幼稚園 2 校、小学校 1 校、中学校、高等学校がそれぞれ 2 校、大学、大学院各 1 校を擁し、学校法人全体で約 4,200 名の園児・児童・生徒・学生が在籍する総合学園となりました。

聖学院の歴史を語る中で、よく紹介されるのが「聖学院」という名の由来であります。聖学院中学校・高等学校初代校長の石川角次郎先生は、聖学院は「聖なる学院ではなく、聖学の院である」､「聖人の教えを学ぶばかりではなく、学んで聖人となるのである。」と、聖学院の名称にこのような願いと決意を込めたと学校史にあります。

この歴史を引き継ぐ私たちは、21 世紀、聖学院に連なる各校をいかなる学校としていけばよいのでしょうか。

この 4 月に学校法人聖学院は、今年度から向こう 5 年間の中期ビジョンである「第 2 期聖学院ビジョン」を公開いたしました。

この中で聖学院に属するすべての学校が「神を仰ぎ 人に仕う（Love God and Serve His People）」というスクールモットーの下に、「将来の日本および国際社会に貢献する人間を育成 －「誰一人取り残さない」世界の実現を目指して－」という教育目標を明らかにしました。

これに先立ち 2002 年に策定された「聖学院教育憲章」の中にも、「オンリーワン・フォー・アザーズ」という教育理念が記されていますが、これらの中に見出される聖学院教育の使命は、第 1 に、教育を通じて在籍者一人一人が神から与えられている固有の賜物を知ること、第 2 に、自分の賜物を、他者や社会のために差し出せる個人を育て世に送り出すこと、これらが「聖学の院」である私たちに託された今日的な使命であると考えます。

しかし、少子化が進展する今日の日本社会において、教育現場や学校経営を取り巻く状況は厳しさを増すばかりです。学校間の競争の激化、教育が消費サービスと化し、在籍者やその保護者の多大な要求が教育の現場に押し寄せる中で、私たちは徒労感にさいなまれ、自分のやっていることの意味を見失いそうになる時があります。先ほど石橋先生からいただいたメッセージの中にあるように、私たちは一人一人がそれぞれ棘を身に負いながら教育という仕事に向き合っているのです。

しかし、そうであればこそ私たちの視線は「神」を仰がなければなりません。聖学院大学のチャペルの天井をご覧ください。2005 年 7 月の「聖学院大学チャペルパイプオルガン設置推進発起人会発足の宣言」の中には、聖学院大学のチャペルはその中央天井が、旧約聖書にあるノアの箱舟がモチーフになっているとあります。「神によって集められた者たちが、神の御心にかなう新たな世界をつくるべく一つの船に乗り合っている」それをこの礼拝堂の空間は現わしているのです。

この聖学院が神の御心によって建てられた学校であること、私たちはそこに教育という使命を託されて呼び集められた同労者なのだということを新たに刻み、今日からの歩みを進めたいと思います。

時に困難に遭遇しても、聖学院 120 年の歴史において労苦されてきた先輩諸氏の不屈の精神や、ご来賓の皆さまのご貢献に思いを馳せながら、ここに聖学院の教育理念を堅持し、同時に時代の要請に応える新たな教育にも果敢に挑戦し続けることを誓い、聖学院創立 120 周年記念式典の式辞と致します。

2023 年 10 月 28 日

学校法人聖学院理事長　小池茂子